

令和 3 年 6 月 19 日現在

機関番号：32681

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2020

課題番号：15K17358

研究課題名(和文)大正期における新教育の実践と学校園

研究課題名(英文)Gakkoen and New Education in the Taisho Period

研究代表者

植田 千賀子(田中千賀子)(ueda, chikako)

武蔵野美術大学・造形学部・講師

研究者番号：10711674

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、大正期の学校園の展開について、新教育の実践に着目ながら実態を明らかにすることを目的とした。全国的な動向を確認するために小学校の学校沿革史や学校所蔵資料等の調査や分析をおこなった。また現在までの学校園に関わる施設についても検討の対象とした。主な成果として、奈良女子高等師範学校において大正新教育の影響を受けた「学習園」の取り組みが確認でき、子どもの主体性を重視する教育活動との関連性が明らかになった。また長野県内において「学校林」の整備と合わせて学校園が推進された事例など、地域や学校の特色に応じた目的や形態をもって多様に実施されていた状況が確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、現代的課題としても注目される自然環境に関わる教育実践を、客観的に分析するための理論研究として位置付く。本研究で学校園の目的や形態などが事例ごとに異なり、地域社会や学校の特色をふまえていた点を実証したことは、現在の教育実践のあり方に対する示唆をあたえる意味で社会的意義をもつ。また学術的意義としては、教育史学の分野での成果発表にとどまらず、日本森林学会、日本野外学会などにおける学会大会報告や論文投稿、地域資料研究グループとの連携による本研究の情報提供など、関連分野での公表につとめたことで、これらの分野における歴史的研究の進展にも寄与できたと考える。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the actual situation of the development of “Gakkoen” (school gardens) during the Taisho period while focusing on the aspect of the practice of implementing new education. In order to confirm nationwide trends, this study conducted research and analyses of schools’ history and resource materials at elementary schools. And we investigated Gakkoen until now as well as similar facilities. The main result shows that the “Gakushuen” initiative, which was influenced by the Taisho new education program, was confirmed in elementary school attached to Nara Women’s Higher Normal School, and the relationship between such gardens and educational activities that emphasize the independence was clarified. Gakkoen were found to be promoted alongside the development of School forests in Nagano Prefecture, where Gakkoen were implemented in a variety of ways in accordance with different purposes and forms that suited the characteristics of the community and the school.

研究分野：教育学

キーワード：教育史 学校園 学校林 学校施設 自然環境 大正 新教育

1. 研究開始当初の背景

学校における自然環境は、地球環境問題の課題と関わる環境教育や体験学習のフィールドとして着目されているが、その実践を考察する基礎研究が不足している。現在の実践を客観的に評価、分析するための理論的視座として、自然環境に関わる歴史的な施設の実態を解明する必要があると考えた。研究代表者は、『近代日本における学校園の成立と展開』(風間書房、2015年)において、明治期の学校園の成立を明らかにしたが、大正期の展開については未解明の部分が残されていた。一方大正新教育に関わる研究では、学校園の存在は言及されつつも、環境や施設設備と教育内容の関連性に着目した研究は学校建築を対象とした小林正泰『関東大震災と「復興小学校」 学校建築にみる新教育思想』(勤草書房、2012年)などにとどまる状況であった。

2. 研究の目的

本研究は、大正期の学校園の展開について、新教育の実践の側面に着目しながら実態を明らかにすることを目的とした。全国的な動向については、学校所蔵史料の調査と分析を視野に入れて、公立小学校での取り組みの状況を概観したうえで、都市部と農村部といった地域性をふまえた特徴を考察することをめざした。さらに現在に至るまでの学校園及び類似の自然環境に関わる施設についても検討の対象として、大正期の学校園の位置づけを検討することとした。

3. 研究の方法

大正期の学校園の全国的な動向の確認のために、国立公文書館、各都道府県の文書館・図書館などの資料、また教育関係雑誌や学校沿革史などの刊行物の概観をおこなう。さらに個別事例の調査と分析のために、新教育に関する先行研究において言及される例、明治期において着目された学校園の例、学校沿革史などで確認される例などを元に対象を設定し、各学校が所蔵する史料の調査、収集、分析をおこなう。具体的には明治期から着目されていた東京都、兵庫県の事例の調査をすすめる。また現在までの実践の概観のために、長野県や東京都など現在の自然環境をフィールドとした教育実践への参与観察などを行い、体験学習の意義などについて比較検討する。

4. 研究成果

主に大正期の学校園と新教育の関わりを検討するために、全国的な事例を学校沿革史などをもとに概観したうえで、検討対象を選定し、学校所蔵の文書史料などの調査や分析をおこなった。当初予定していた東京都、兵庫県では史料の調査が進まず、そのため次の通り奈良県、京都府、滋賀県、長野県を新たな対象として再設定して、成果をえた。

- (1) 奈良県について、木下竹次による環境整備が先行研究などにおいても指摘されることから対象に設定した。奈良女子高等師範学校の「学習園」の実践が、新教育の実践と明確な関わりをもつ事例であることを学校所蔵史料などにもとづいて明らかにした。同校の学習園の自然物に対して、児童が学習題材を設定できたことが確認されたことは、現在の総合的な学習や、自然体験学習などにおける教育上の意義を考察するうえでも示唆に富んでいたと考えられる。この成果を日本教育史学会の機関誌にて論文として公表した(田中千賀子「奈良女子高等師範学校附属小学校の学習園」『日本教育史学会紀要』第8巻、2018年3月)。
- (2) 京都府について、京都市では明治初期に番組小学校などが一斉に整備されたことや、学校周辺の環境が多様であることなどから、学校園の様相の比較に適すと考え対象に設定した。各校が刊行する学校沿革史などを対象に、学校園に関する記述などを概観し、地域の特色をふまえた内容を考察した。その成果を研究室の機関誌の報告として公表した。(田中千賀子「明治大正期の京都府の学校園の諸相」『造形と教育 武蔵野美術大学大学院「教育学研究」ゼミナール報告書』第9号、2016年1月)。
- (3) 滋賀県について、明治期に優良事例として紹介されていた「水口高等小学校」の例などが確認できるほか、新教育の実践として、谷騰の昭和学園での取り組みも着目される地域であるため対象に加えた(木全清博『滋賀県の学校史』文理閣、2004年など)。先行研究や学校沿革史を中心に学校園に関する記述の確認をおこなった結果、各校において「学校園」が存在していたことや、これと密接に関わる施設として「学校林」が整備されていたことが明らかになり、地域性をふまえた分析にとって、学校林整備の観点を加えることの意義が確認できた。ただし、教育目的や内容などと合わせた分析が困難であり、一次史料の調査にも取り組んだが、教育内容などを詳細に明らかにすることができる史料は確認できなかった。
- (4) 長野県について、新教育や学校林の取り組みが先行研究でも指摘されていることから、新たに検討対象に加えた(竹本太郎『学校林の研究-森と教育をめぐる共同関係の軌跡』農文協、2009年。『長野県教育史』第6巻、1976年など)。各学校の学校沿革史での学校園や学校林に関する記述を整理し、小学校が所蔵する一次史料の調査を進めた。結果として、「高遠小

学校」が学校林と学校園を共に有する事例であり、学校所蔵史料を用いた詳細な分析が可能であることが確認できた。また長野県の調査過程では今後も調査と分析の余地がある史料の存在が明らかになった。すでに学校史料の調査と保存がなされている「開智学校」といった著名な例のほか、現在調査が進行中の「高島学校」での学校所蔵史料においても、学校園や関連する植物園等の施設が確認できた（田中千賀子「史料紹介「植物園日誌」」宮坂朋幸編『学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史』（2016～2019年度科学研究費助成事業[基盤研究(C)課題番号 16K04506]研究成果報告書/研究代表者宮坂朋幸)2020年3月)。こうした史料調査や、共同研究への参加によって、長野県が地域との関連性をふまえた複合的な分析とともに、自然環境に関わる教育施設の歴史的展開を検討していく可能性があることへの展望を得ることができた。

また、現在までの実践の概観のために、長野県、東京都などでの自然環境を学習の場とした教育実践への参与観察をおこない、登山などの身体的活動、自然観察などの知的活動、絵画やものづくりを含めた文化・芸術的な活動などの、現在の多様なニーズと実践を確認し、これらの成果を学会での口頭発表や学会機関誌の論文として公表した（田中千賀子「野外における造形ワークショップ「つくってはいろう虹色テント」」長野県東御市スケッチ大会&アートチャレンジにおいて」『大学造形美術教育研究』第15号、2017年3月。田中千賀子、井上真理子「森林教育に関する教員研修における参加者のニーズと意識の変化 2017年度東京都の研修（竹細工/造形ワークショップ）の事例から」『関東森林研究』第69巻、2018年など）。大正期の新教育の実践においてさえ、子どもの自由な学習活動が制限されていたことと比較して、現在の実践において子どもの主体性を重視した体験活動の内容とフィールドが設定されていることが確認できた。

こうした本研究を通して明らかになった大正期の学校園を、現在の実践を視野に入れながら通史的に整理し、その成果を教育関連雑誌にて公表した（田中千賀子「教育史からみた自然環境のとりえ方 近代日本の学校園を中心に」『発達』第159号ミネルヴァ書房、2019年7月）。

さらに本研究を通して、長野県が学校園と学校林の両方を積極的に整備していたこと、学校所蔵史料など、分析に適した一次史料が存在すること、現在においても自然環境をフィールドとした教育実践が盛んであることが確認できたことから、自然環境に関わる学校施設の歴史的展開を検討していくための対象地域として妥当であることが判断できた。この成果を活かし、継続した研究として発展させていくために設定した研究課題が、若手研究「近代日本の初等教育における森林・林業教育」（19K14075）が2019年度より開始された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 159
2. 論文標題 教育史からみた自然環境のとらえ方 - 近代日本の学校園を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 発達	6. 最初と最後の頁 71-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 1
2. 論文標題 史料紹介「植物園日誌」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校所蔵史料の総合的研究 近世から現代に至る学校と地域の関係史	6. 最初と最後の頁 203-216
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 8
2. 論文標題 奈良女子高等師範学校附属小学校の学習園	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本教育史学会紀要	6. 最初と最後の頁 21-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 36
2. 論文標題 書評に込めて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本教育史研究	6. 最初と最後の頁 143-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 15
2. 論文標題 野外における造形ワークショップつくってはいろいろ虹色テント 長野県東御市スケッチ大会&アートチャレンジにおいて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大学造形美術教育研究	6. 最初と最後の頁 32-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 35
2. 論文標題 論評	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本教育史研究	6. 最初と最後の頁 95 - 98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 9
2. 論文標題 明治大正期の京都府の学校園の諸相	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 造形と教育 武蔵野美術大学「教育学研究」ゼミナール報告書	6. 最初と最後の頁 51-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中千賀子	4. 巻 14
2. 論文標題 幼児の造形ワークショップにおけるファシリテータの変化-つむぎワークショップ 藍染め&納涼空間づくり	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 大学造形美術教育研究	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 井上真理子、大石康彦、田中千賀子
2. 発表標題 森林・林業の普及を学校教育と連携して実施するための課題－東京都での教員研修を通じた学校でのニーズと課題の分析－
3. 学会等名 林業経済学会2019年秋季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大石康彦、井上真理子、田中千賀子
2. 発表標題 歴史的資料による森林教育再考
3. 学会等名 日本森林学会第132回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中千賀子、井上真理子、大石康彦
2. 発表標題 大学における森林・林業関連学科の研究室の設置状況
3. 学会等名 日本森林学会第132回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 土方圭、張本文昭、井上真理子、田中千賀子
2. 発表標題 続・野外教育学を体系化する試み－近接する学術・実践領域からの示唆－
3. 学会等名 2020年度日本野外教育学会オンライン研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 大正期の農村部における学校園
3. 学会等名 教育史学会第62回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 野外における造形表現活動 - 「長野アートチャレンジ/スケッチ大会」における造形ワークショップから -
3. 学会等名 第21回日本野外教育学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 美術教育における自然体験の位置づけ - 先行研究の整理 -
3. 学会等名 日本野外教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中千賀子、井上真理子
2. 発表標題 森林教育に関する教員研修における参加者のニーズと意識の変化 2017年度東京都の研修（竹細工/造形ワークショップ）の事例から
3. 学会等名 関東森林学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 野外における造形ワークショップの実践報告 少数スタッフによる試み
3. 学会等名 森林教育交流会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 奈良女子高等師範学校と附属学校における学校園
3. 学会等名 教育史学会第60回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 美術教育からみる 幼 と 老
3. 学会等名 総合人間学会第10回研究大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 野外における造形表現活動の特徴 アートキャンプの事例から
3. 学会等名 日本野外教育学会第18回大会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 田中千賀子
2. 発表標題 知識の統合を目指した学生主体の「アートキャンプ」によるアクティブ・ラーニングの提案
3. 学会等名 私立大学情報教育協会 被服学・美術デザイングループ分野連携アクティブラーニング対話集会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 高橋陽一・杉山貴洋・葉山 登・川本雅子・田中千賀子・有福一昭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 武蔵野美術大学出版局	5. 総ページ数 256
3. 書名 総合学習とアート	

1. 著者名 田中千賀子	4. 発行年 2015年
2. 出版社 風間書房	5. 総ページ数 277
3. 書名 近代日本における学校園の成立と展開	

1. 著者名 高橋陽一、杉山貴洋、川本雅子、田中千賀子	4. 発行年 2015年
2. 出版社 武蔵野美術大学出版局	5. 総ページ数 192
3. 書名 造形ワークショップ入門	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------